



21世紀

# 第8回 京都高齢者大会報告

2008年 7月7日

## 高齢者の怒り集め、延べ515人が参加

- 後期高齢者医療制度の廃止！
- 憲法守れ増税反対福祉の充実を！

「21世紀 第8回京都高齢者大会」(同実行委員会主催)が7月7日、京都市中京区のラポール京都で開かれ、午前中に行われた分科会・学習講座と午後からの全体会に延べ515人が参加しました。大会後、参加者は、四条大宮までパレードを行い、後期高齢者医療制度の廃止などを訴えました。

京都高齢者大会は、ボランティアや文化活動の交流、社会問題の学習などを通じ、高齢者の社会参加を進めていくことと毎年開かれている同大会は、2001年以降、今回で8回目。

午前中の分科会では、「憲法・平和・教育」や「高齢者の仕事と生きがい」「文化・ボランティアと仲間づくり」など8つのテーマでそれぞれ活動報告や経験交流、質疑応答などが行われました。今大会は、この4月に後期高齢者医療制度が実施されて全国的に怒りの声が高まる中で開かれただけに、「後期高齢者医療制度」の分科会には、約70人が参加。関心の高さをうかがわせました。

午後から行われた全体会では、後期

高齢者医療制度廃止！京都連絡会の松本隆浩事務局長が特別報告を行い、「地域や職場で学習会を進め、次の国会が始まるまでに京都で30万の署名を集め、後期高齢者医療制度を廃止して日本の医療制度そのものを良くしていく、社会保障制度を良くしていく運動をみなさんとともに頑張っていきたい」と訴えました。

記念講演では、『上方芸能』発行人で、和歌山大学客員教授の木津川計氏が、全体会では、木津川計和歌山大学客員教授が「老人は団結せよ」と題して講演。年を取るということをユーモアを交えて語り、「年を取ると家族の支えと同時に社会保障の支えがなければ生きていけません。後期高齢者医療制度の中止・撤回を求めるために日本中の老人が一つになるように頑張りましょう」と呼びかけました。

大会は、最後に「『早く死ね!』と言われた高齢者は長生きして自公政権と対決し、一日も早い衆院解散総選挙を要求します。何としても差別医療の廃止まで頑張る決意を宣言します」とする大会宣言を採択。

大会後、参加者は、会場から四条大宮まで後期高齢者医療制度廃止などを訴え、パレードを行いました。

記念講演

『老人は団結せよ』木津川計(和歌山大学客員教授)

■家族の支え、社会保障の支え

私は、2年前に立命館大学を70歳で定年退職しまして、今は、和歌山大学へ客員教授で参っています。それですと学生と一緒にしたから、学生が使います言葉や流行語もだいたい心得ているつもりですけども、その私でも、えーつと言うくらい遅れをとっていつている場合があります。

これはちつともかまわない事です。ムリをして若者に迎合する必要はありません。今の若者もやがて50年したら「ふるっ」と言われるわけです。これはもう人生順送りですから。我々は、我々の言葉を使ってお互い理解しあえたらそれでいいわけです。

しかし、年をとるほどに身体機能が遅れていくわけです。まず記憶力が衰えます。新しい事をよう覚えな。私は、タレント、女優、歌手なんかの10代、20代の娘さんがよう聞いてますけど、みんな1人にしか見えません。区別がつかないんです。

そして反射神経も鈍くなるわけでありまして、要するに体力が衰えます。衰えますと、よぼよぼになるんです。ちよつと電車に乗っても、立ち上がった拍子にちよつとよろつとしたりしまして、ああいよいよよぼよぼのはじまりやなと思ってるものであります。いつの時代にもこういうよぼよぼの老人というものは生み出されたのです。

老人には、大切なことが2つあるんです。1つは家族の支えというものであります。もう1つは社会保障の支えです。ことに家族の支えで申しますと、互いに支え合うことのない老後ほど、あるいは老夫婦ほど、あるいは老人の暮らしほど悲劇的なものはないと申し上げるものであります。

家族が支え合う。ということのために大事な精神は、思いやりの精神を持てるか持てないかです。思いやりの精神であります。

同時に大事なものは、家族の支えだけじゃなくて、さつき申しましたように社会保障の支えがなければいけないわけですね。老人は働けないわけです。定年になつていくわけです。収入がないんです。老いば誰だつて病気になるんです。そのときに社会保障の支えがなければ、人間はどうして生きて行けるんですか。それがさつき言われた憲法25条、最低限度の生活を保障すると。私たちの憲法は、そう保障してくれて私たちはかろうじて生きて来たわけでありまして。その社会保障というものの優しさがなければ、私た

ちは生きて行けないわけです。

■生きていること自体が罪という政府

こういう歌があります。4月に朝日歌壇に載った、三池淑恵という方の短歌であります。入選した短歌であります。

懸命に生きたる罪か 人間の枠外されし後期高齢者

政府の、私たち、みなさんに対する態度を彼女は怒っているわけでありまして。私たちは罪を犯した覚えはちつともありませんけれども、しかし今、政治が私たちを扱っているのは罪人扱いのようなものであります。

すぐる15年戦争で参戦した人がこの中にいくらかおられます。なぜ華々しくお国のために死んでこなかったんですか。それがあのころ、死んで帰れと励まされて戦地へ赴いた兵士たちの任務やったやないですか。それをおめと生きて帰ってくるなんていうようなことが罪なんです。

戦後復興にあつたときはまだ20代、30代でした。京都は空襲には遭いませんでしたが、東京、名古屋、神戸、大阪、





焼け野原のあの戦後荒廃を復興させてきたのも戦場から帰って来た20代、30代だったわけでありませぬ。

そこへ高度経済成長。10年で私たちの暮らしはヨーロッパと肩を並べるんだということ、歯をくいしばって、長時間労働と低賃金に耐えて耐えて、高度経済成長。あの経済の爆発的大進展を私たちは成功りに達成させたわけなんですね。

あのころ、懸命に働く勤労者、労働者を企業戦士と言ったんです。経済拡大戦争だったわけでありませぬ。塹壕から塹壕を飛び越えて行つた。そういう20代だった人が今ここへ来ているんじゃないですか。

戦士だったらその経済拡大戦争でどうして戦死しなかったんですか。おめおめ生きさらばえて、今ここに集まって、政府に何してくれ、あれしてくれと言う。それが罪なんですか。

もう繰り返すまでもありません。前期と後期に分けられたわけでありませぬ。後期高齢者のみなさんに申します。私は10月に73ですから、後2年したら後期高齢者のみなさんの仲間入りをするものでありますが、後期高齢者は政府にこのように言われているのです。「お前らの使用期限はもう終わった。耐用年数もすぎた。お前らの賞味期限、もうとうに過ぎて、腐った臭いを出してるやないか。

早いこと死ななかな」というのが、今度の後期高齢者医療制度なわけでしょ。

皆さん方に生きていて自分で罪深いものだと思う。早いこと死んでくれという政府の本心が75歳以上の老人の医療を制限するわけです。

### ■福祉で国が破綻した例はない

今、福祉に手厚い政策をとっていったら国は倒れる。こういう論調がなされています。神戸看護大学の岡本祐三先生は、今から9年前に『高齢者医療と福祉』という岩波新書の中で、「国民負担率が上昇すると経済成長を阻害するということも誰も証明していない」と指摘されています。

さらにこう書かれています。「福祉のやり過ぎで国の経済が破綻した例はない。むしろバブル経済の破綻に見られるように福祉の分野にしっかりと投資しないで官民あげて熱に浮かされたように金を溜め込む事に没頭していると、あのように資本の過剰蓄積が生じ、とんでもない経済破綻が起こるのである」と。

福祉にその国の財政破綻の責任はない。そういうことが証明されたという経済理論はないと言っておいでなんです。

道路にどんどんどんどんこれからも何十兆円を100年に費やして行くこと、というこの国であります。それが毎年わずか2200億円です。これを削っていかうと

しているわけでありませぬ。この道路建設の何十兆円というのをもしカットするならば、私たちの今の福祉についての財政危機が言われますが、そんなものは瞬時にして解決する。老人に思いやりのない政治というものはこういうものであります。

戦後非常に苦しい段階から一生懸命働いて来て、そして生き延びている事を罪だと言われるために私たちは歯を食いしばって来たわけではないんですね。老人と子どもがどのように扱われているのかというのを見る事でその国の政治の善し悪しが分かる。こう言われるのであります。

先ほどいただきましたチラシに全てが書かれています。この中の5行を最後に読ませてもらいます。これがまた私の一番言いたい事です。「すでに2006年10月より、長期入院患者への食費・居住費の負担増、現役並所得者の2割から3割負担への引き上げが実施されました。歳を重ねれば誰でも病気がかりやすくなります。高齢者に必要な医療を保障することが当然であるにも関わらず、年齢のみで差別するような医療制度は、世界に例を見ません。後期高齢者医療制度は、高齢者に「早く死ね」と言わんばかりの「うば捨て制度」であり、憲法に保障された生存権も基本的人権、人とし



ての尊厳をも踏みにじるものです。高齢者からの収奪と医療費削減を目的とした後期高齢者医療制度の中止・撤回を求めます」

そのために第8回目の京都高齢者大会は開かれたと違ふんですか。力を合わしましょう。団結をする以外にないんです。1人1人ばらばらでは何の役にも立ちませぬ。ここに集まったこの力を私たちは原点にして京都中の老人が、日本中の老人が一つになるように、今日をその出発の日にしたいと思ひます。頑張つてやりましょう。ありがとうございました。

## 分科会報告

### 第1分科会 憲法・平和・教育

19人参加

日米軍事同盟と自衛隊の実態 海外派兵の恒久法の現状について報告について討論

世界中から認知されている日本の憲法と矛盾する、戦争ができる国づくりが露骨になつてきている。名古屋高裁の違憲判決をテコにいまこそ憲法9条を輝かし、生かす必要がある。

また、戦争体験や戦時下の暮らしを語り継ぐ活動などの実践報告があった。(口丹戦争体験を語り継ぐ集い)

### 第2分科会 後期高齢者医療制度 医療

と介護

69人参加

スライド使った学習会約30分行い、その後参加者が発言。

保険料の減免申請に行くとき家族で年間2万円の減免できたケースがあったが、行かなければ変わらない。今までは早期発見早期治療という時代だったが、知らない間に悪くなって早く死んで欲しいという中身になっていくのではないか

介護保険導入後も家庭での受け入れ困難。訪問介護や訪問看護ではまかなえない。社会保障の充実を求めてたたくて行かない

ればならない。

後期高齢者医療制度の問題では、廃止を求める署名。京都ではこれまでに約11万集まっている。7、8月国会に向けて30万の署名を集めようという提案している。国会休会中で運動が進みにくい状況だが、いっしょに頑張りましょう。

### 第3分科会 今こそ最低保障年金を

24名参加

年金者組合の最低保障年金制度が非常に注目されているし、やっつけていかなければならない。金額については、国民大多数が年金制度としてまともれば自ずと解答が産まれるはずだ。ぜひ運動を活発にやろう。

かつては、年金に物価スライド、賃金スライドなどの制度が生きていたが、今は一方的に下がるばかり。

ヨーロッパでは年金者が生き生きと暮らせるように工夫している。

### 第4分科会 高齢者の仕事と生きがい

27人参加

最近、高齢者に対して税金や介護保険料など経済的負担が非常に増えている。年金だけではたいへん。憲法に保障された人間らしい暮らしをしていこうと思ったら余裕が必要になる。就労問題をみんな考えていただきたい。

年金だけでは暮らせない。働く事で社会

的参加と生きがいを求める。高齢者のために国と自治体はもっと仕事を出せという運動をもっと強めることが大事ということを確認した。

### 第5分科会 福祉の町づくり

22名参加

歌声喫茶や配食サービスなど多世代交流の中で次世代を育てる活動(フオーラムひこばえ)。介護保険でできないことである重要な要望が多く出ているのをNPO法人で活動(東山・りぼん)など各地域での活動の報告があった。空き家を利用するなど高齢者、障害者が安心して住める共同住宅など助け合いの住居を造って行く事が大事ではないかということを取り組んでいる地域もありました。

### 第6分科会 文化ボランティアと仲間作り

21名参加

自然保護活動などに取り組んでいるボランティア団体からの報告がありました。学ぶことが守る事につながる。地域を守る上で人と人との関わり、団結が大切である。地域を守る事によって、ひいては地球をまもることに通じるのではないか。そういう話になりました。

### 第7分科会 人間らしく生きる権利

18名参加

生活保護の老齢加算、母子加算の削減は憲法違反であるということで裁判をたたかっただけの原告・弁護団から、裁判の意義、今までの闘いの経過などをお話いただき、原告から生々しい生活実態などが報告された。最低生活を守る大事なたたかひの1つとして、生存権裁判をたたかっただけに行く必要がある。

### 第8学習講座 高齢者の暮らしと税

16名参加

福祉のため、年金財源のためなど消費税増税の大合唱となっている。その狙いは、法人税減税の穴埋めをする消費税引き上げ。軍事費の調達。地方交付税や国庫補助金削減で苦しむ自治体を消費税増税で国に追従させる。貧しいほど負担率が高くなる逆進性は福祉充実とは両立できない。税は政治のかがみ。総合課税、生活非課税、不労所得、応能負担、累進課税で所得再配分機能を果たす税制をめざしていきたい。

### 編集・発行

### 第8回京都高齢者大会実行委員会

なお、次回第9回京都高齢者大会は、2009年7月11日(土曜)の予定です。